

女性の力で新規事業―。金属加工などの共和工業所(倉敷市松江)は、鉄を使った雑貨の製作・販売を始めた。女性社員のチームが企画やデザインなどを担当する。ちらしの封入などを手掛けるエヌ・ファクトリー(岡山市

南区福富中)も、母子手帳カバーを皮切りに雑貨・小物の企画・製造をスタート。子育て中の内職スタッフの経験とアイデアを商品開発に生かしている。

共和工業所



共和工業所の女性社員がデザインした風鈴

産業機械や建設機械向けを中心とした鋼材の受注加工を主力とする共和工業所。雑貨は初の一般消費者向け商品として展開する。新規事業の創設とともに、準備を進めてきた。「柔らかな温かみ

女性のアイデア商品化

エヌ・ファクトリー

エヌ・ファクトリーの母子手帳カバー子育て中の内職スタッフと社員の女性案。手帳と一緒に胎児のエコー写真やを管理する母親は多く、ニーズがあると今月からホームページで受注している

丈夫で風合いのいい馬革を縫製加工保険証やカードなどを収めるポケット、花柄、水玉模様といった8種類インを用意。二つ折りにすれば、岡山市母子手帳にぴったり合うサイズ(縦24.5

母子手帳カバー

子育て経験生かし発売



37.5センチ)にした。4980円から。

同社は2004年創業、資本金300万円。12人と、乳幼児の母親を中心とする内職スタッフ150人で、ちらしやダイレクトメール封入、包装箱の製作などを手掛けていた。年秋のリーマン・ショックの影響で仕事のため、マンパワーが生かせる新規立ち上げた。

中川正志社長は「アイデアを積極的にすることでモチベーションも高まる。」増やし12年度に雑貨・小物で3000万円体で1億円の売り上げを目指す」と語る。(森元俊一朗)

温かみある鉄製品を

のある製品を作ろう」と、「鉄の雑貨屋さん」をコンセプトにデザインなどを企画。これまでに表札プレートや、フクロウやチョウをデザインした風鈴、カブトムシ、クワガタをかたどったオブジェといった商品を開発した。部品の加工の際に余った材料を有効活用。社内のレーザー加工機などを使って現場の担当者が製造する。

新たに設けたネット店舗「和工房」で販売。価格は風鈴、オブジェが8400円から。店舗や新規の設備投資も不要なため、「一般の小売店などで売られている同種製品より2割以上安い」と(同社)という。初年度は500万円の売り上げを目指している。

風鈴やオブジェデザイン

同工房の岩下寿子店長は「事業を始めてから、ものづくりの面白さや厳しさを知り、コストなど生産性も意識するようになった。女性らしい感性を生かし、品を充実させていきたい」と話している。

共和工業所は1954年創業。資本金4500万円。従業員約60人。売上高約6億円(2010年8月期)。(田中泰)



プレートやオブジェなどの商品。「鉄の雑貨屋さん」がコンセプト